



TOKYO FORUM JOURNAL No.9

世界の中のひとり、地球市民として

いま、地球で何が起きているのか？

アマゾンの森林伐採をはじめとする自然破壊。

オゾン層を破壊する大気汚染。

海を汚染するゴミ問題など、地球をめぐる自然環境が、

いちじるしく変わろうとしています。

いま、私たちに何ができるのか？

個々に人格をそなえた人間として、

地球という家族の一員であるなら、

木も動物も人もかけがえのない生命であるなら、

共に支えあい相手を生かすことよって

自分も生かされる喜びを感じよう。

『フォーラム・ヒューマンエイジ』は、自分の手で何かをしようと願う、

人と人との集まりです。

はじめに

東京フォーラム ジャーナルNo.9が完成したことを嬉しく思います。東京フォーラムの活動はすべてボランティアによるもので、東京フォーラムの趣旨に賛同された会員の自発性と善意によるものです。自分の満足のためだけでなく、共同作業をする中で責任感を養成し、社会をよくするためにはまず一人一人が自覚し、行動することが大切であると認識します。



1997年の東京フォーラムは日本と世界の現実を知るために日本の抱えている問題、世界が抱えている問題を取りあげ、宗教、政治、社会、経済と多義にわたる勉強をしました。11月には「グローバリゼーション—情報と人間の視点から」というテーマでシンポジウムを開催しましたがその中でも多くの問題提起がありました。欠けているものをどう補うか、それが私たちの今後の課題です。

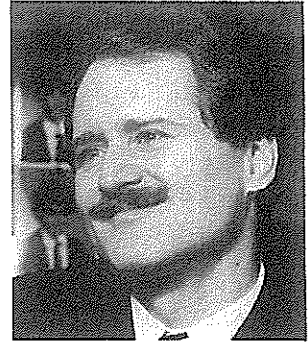
東京フォーラム
代表 荒井佐念子

TOKYO FORUM JOURNAL No.9 目次

アジアを見るときに日本人の目を曇らせるもの (1月)	渡辺文夫	1
今、私達に求められている自己改革 (2月)	トマス・J・セバス	3
加藤シヅエ様100歳のお祝い会 (3月)	加藤シヅエ	5
対アフリカ協力と民間の役割—私たちに何ができるか(4月)	黒河内 康	9
世界史の中の21世紀 (5月)	謝 世輝	11
人道的視点から見た国際情勢 (6月)	近衛 忠輝	13
ロシアについて考えること (7月)	渡邊幸治	15
21世紀の日本の資本主義について (9月)	三好正也	17
世界の女性はいま何を目指しているか(10月)	荒井佐念子	19
東京フォーラム'97 シンポジウム 「グローバリゼーション—情報と人間の視点から」(11月)	加藤シヅエ 山本卓眞 田原総一郎 荒井佐念子	21
クリスマス会 (12月)		26
東京フォーラムのあゆみ		27

「今、私達に求められている 自己改革」

(1997年2月研修会)



トーマス・J・ネビンス

TNT社は営利団体です。今日は、荒井さんのボランティア精神を見習って奉仕活動として皆さんと一緒に幸せな生き方について考えていきましょう。

わが社は外資系会社の就業規則、給与体系、解雇問題、人員削減、労働組合の対策など最も難しい分野を扱っています。通常、男性サラリーマンを対象にモジュール（質問事項）を出してコンサルトします。例えば人員削減の場合、希望退職ではなく指名による時は、会社の経営難を説明して転職を勧め、残ることを希望する人にはこれまで以上に頑張ることを会社を立ち直らせて欲しいと説明します。いずれの場合も勇気付けることを最大のねらいとしています。人間精一杯生きること、これが今日のテーマです。

バイタリティーがある人、目的に向かって進んでいる人は目が輝いています。たとえ目的がなくてもあるかのように背筋をピンと伸ばして颯爽と歩いてみます。朝起きた時、やる気を持ってすがすがしく目が開くでしょうか。無理に起こされるのではなく、「今日は一日誰のためにどんな良いことが出来るだろう…」と考えてみます。「幸せの鍵はいったい何でしょう？」それは成長すること、自分を発展させていくことです。日常生活の中で不快な出来事があったら、イライラするよりも

機転を利かせて自己暗示にかけ、知識からくる自覚によって幸せな気分にもっていき、プラス思考で解決します。ここに自己判断するために資料があります。自分を発見するためのキーワードを探します。自分は何のために働くのか。20年後にどんな自分になっていたかアンケートに記入して下さい。自己判断ができて面白いです。

さて神は人間に一つの口、二つの耳を下さいました。だから私達は喋る分の二倍人の話を聴くべきです。また、私は散歩の嫌いな妻に散歩の良さを説明して、いつも夫婦で長距離散歩を実行しています。小さなきっかけで夫婦共通の楽しみを持つことは大きな幸せです。妻はかつて「男の人は、たとえ財産があっても毎日仕事があって大変ですね。」との優しい労りの言葉をかけてくれました。それが私の大きな励みになりました。50万円しかない人も50億円もっている人もその幸せの度合いはほとんど変わりはありません。上下水道、高速道路、…その他なんでも揃っていることを有り難いと感じるならその人は幸せです。

想像力を磨きましょう。自発性を制限してはいけません。特に子供と接するとき、その子の能力を制限してしまっていないでしょうか。マイケル・ジョーダンはずいぶん魔法といえる

ような技が出来るでしょうか。運動とは 95%がメンタルなものです。自分は出来ると自己暗示にかけ、恐怖心をもたないからです。営業マンも恐怖心をもたず、自信をもちましょう。また知識はパワー。自己開発のため収入の 10% は本やテープの購入に当てましょう。成功している人の多くは高卒です。大学卒は勉強は済んだと思いがちですが、高卒はコンプレックスがあるので更に勉強しようと頑張ります。人間の動機とは自分自身が何かに向かっていくことであり、何かは自分のところに向かってくるのを待つことではありません。また、行動の動機付けは喜びを得るためか苦悩を回避するためかのどちらかです。

私はこの仕事をしながらたくさんの好きな格言を集めました。例えば—「質の高いコミュニケーションの出来る人の生活の質は高い」(Quality of life is determined by quality communications) 「愛が欲しければ、まずあげる」(If you want to love, give love first. Givers get but receivers don't) 等々。

息子と父親がよく衝突するときの改善策の一つとして、父と息子はお互いにとことんまで自分の意見を喋ることが大切です。一方はひたすら聞き手に徹して途中で割り込まず、聴いたことを全てメモして確認のため最後に全部を相手に伝えます。次に役割を交代して同じことをしてみます。そして二人の考えが一致したところでやめます。しかし、二人が同じ考えなら二人は要りません。一人で十分ということになります。

私は異文化コミュニケーションという言葉は好きではありません。人種に関りなく、誰もが異なっているわけだから自然体でいきたいと思っているからです。鬱病は病気ではありません。

本人の意識の持ち方です。そのような人には自分をハッピーにするためのヒントを与えてあげるべきです。TNTのような会社がトレーニングを提供するべきだと信じて仕事をしています。すぐ転職や退職をする社員がいるような会社には優秀な社員がますますいなくなります。その時誰が会社を守るのでしょうか。このような理由からわが社は、特に外資系会社の研修を中心に仕事をしています。

トーマス・J・ネビンス

経営・労務・人事政策コンサルタント。(株) TNT 代表取締役社長。米・コーネル大学及び日本労働協会研究員。在日米商工会議所理事を歴任。「エコノミスト」「日本経済新聞」等多くの刊行出版物に取材記事掲載。